

## 宮崎県における若手医師の育成と確保を目指した 宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会ワーキンググループの取り組み

小松 弘幸<sup>1)</sup> 吉村 学<sup>2)</sup> 坪内 拡伸<sup>3)</sup> 長野 健彦<sup>4)</sup>  
 姫路 大輔<sup>5)</sup> 早川 学<sup>6)</sup> 外山 孝典<sup>7)</sup> 楠元 寿典<sup>8)</sup>  
 松浦 良樹<sup>8)</sup> 高田 慎吾<sup>9)</sup> 梅村 好郎<sup>10)</sup> 金丸 吉昌<sup>11)</sup>

**要約：**宮崎県で質の高い臨床研修の実施体制を整え、若手医師の育成と確保を目指すため、2003年に県・医師会・大学の連携による宮崎県臨床研修運営協議会が設置された。その後、卒前・卒後一貫教育が重要視され、臨床研修制度の見直しや新専門医制度の導入が進む中、医師キャリアの啓発や臨床能力の向上も視野に入れた活動を推進するため、2016年に同協議会のワーキンググループが新設された。ワーキンググループは基幹型臨床研修病院の研修実務担当者を中心に構成され、医師を目指す県内高校生を対象としたフォーラム、県内研修医を対象とした基本手技の合同実習や臨床技能向上ハンズオン・セミナー、病院内の様々な診療場面での課題解決に挑むメディカルラーの開催など、新たな取り組みを企画・実施してきた。その結果、従来の説明会を主体とした取り組みから県内での若手医師の継続的育成に重点を置いた取り組みへと、質と量の両面での充実が図られてきている。

[令和2年11月30日入稿，令和3年3月3日受理]

### はじめに

わが国における医師の養成と確保を巡っては、昭和初期まで続いた医専での医師養成や戦後の医師養成機関の一元化、1960年代からの全国的医師不足解消を目的としたいわゆる“一県一医大構想”など、長い歴史がある<sup>1)</sup>。宮崎県においても1973年に宮崎医科大学（現・宮崎大学医学部）が設置さ

れ40年以上が経過したが、その間の人口増加と高齢化に伴う医療需要の増大に加え、医療の高度化と細分化、国民の医療安全に対する意識の変化など、様々な要因のもとで医師の需要と供給のバランスも絶えず変化しており、特に2000年以降は全国的に地方での医師不足が顕在化し、現在まで継続している。その中で、若手医師の育成と確保は地域医療の安定と表裏一体であり、その地域の医療政策における最重要課題の1つでもある。2004年に開始された新たな臨床研修制度に対応するため、本県でも県・医師会・大学が連携して「宮崎県臨床研修運営協議会」が設立され、若手医師の育成と確保に努めてきた<sup>2)</sup>。本稿では、2016年に同協議会の下部組織として新設されたワーキンググループ（以下、WG）の設置経緯とその特徴、および活動内容についてご紹介する。

### 1. 協議会ワーキンググループの設置経緯とその特徴

2003年に設立された「宮崎県臨床研修運営協議会」は、翌2004年より新たに導入される医師臨床

- 1) 宮崎大学医学部医療人育成推進センター
- 2) 宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座
- 3) 宮崎大学医学部内科学講座神経呼吸内分泌代謝学
- 4) 宮崎市郡医師会病院救急科
- 5) 県立宮崎病院内科
- 6) 県立日南病院内科
- 7) 県立延岡病院地域医療科
- 8) 古賀総合病院内科
- 9) 宮崎生協病院内科
- 10) 藤元総合病院診療統括部
- 11) 美郷町国民健康保険西郷病院

研修制度の中で、宮崎県で質の高い臨床研修の実施体制を整え、若手医師の育成と確保を目指すため、宮崎県（福祉保健部医療業務課、病院局）、宮崎県医師会、宮崎大学の連携により組織された。その後、同協議会の構成は、県内の基幹型臨床研修病院が当初の4施設から7施設に増加し、協力型臨床研修病院も当初は国立病院、県立病院や医師会病院が主体であったが、研修医を多く受け入れている一般病院や地域医療研修施設も順次加わるようになった。同協議会は、2018年から実施される新専門医制度に対応すべく、2016年より「宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会」へと名称を改正し、宮崎県における臨床研修から専門研修にかけてのシームレスな医師養成の充実を図ることとなった。この組織改正を機に、同協議会の大型化に伴い新たな活動企画の立案や実施が困難となっていた状況を打破

し、補完的な役割を果たす目的で、新たに下部組織としてWGが設置された（図1）。このWGの特徴として、構成員には主に県内7基幹型臨床研修病院の臨床研修や専門研修を実務担当する中堅～若手医師が選出されている点が挙げられる。また、従来の説明会主体の企画だけではなく、研修医や若手医師の臨床能力向上に資する企画や、医師キャリアの啓発に繋がる企画を積極的に起案し、実行することを目標としている点もある。その結果、2016年のWG発足以降、既存の研修説明会や指導医養成事業に加えて、医学生や研修医を対象としたスキルアップ企画のみならず、県内高校生を対象とした医師キャリア啓発事業、看護師などの他医療職との連携研修、臨床研修を担当する事務職を対象とした研修会など、多岐にわたる新たな企画を次々と実践している（表1）。

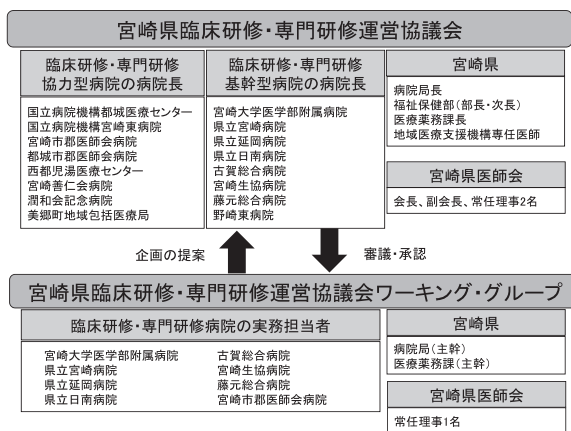


図1. 宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会とWGの組織体制。

表1. 宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会WGの主な年間活動事業。

実施月	対象	活動事業名	開始年度
4月	県内研修医	宮崎県研修医合同基本手技実習	2017～
4月	県内研修医	All Miyazaki研修医スタートアップセミナー	2016～
5月	県内研修医	臨床研修医ウェルカム広告掲載（宮崎日日新聞）	2018～
6月	宮崎大学医学部6年生	宮崎県7基幹型臨床研修病院合同説明会	2011～
7月	県内研修医	宮崎県専門医プログラム合同説明会	2016～
8月	県内高校生	宮崎から医師をめざそう！フォーラム	2017～
9月	県内医学生・研修医	宮崎内視鏡外科アニュアルポゼミナーin佐土原	2016年のみ
12月	県内臨床研修指導医	指導医のための教育ワークショップ	2005～
12月	臨床研修担当事務職	臨床研修事務職のための教育ワークショップ	2016～
1月	県内研修医	ひむかレジデント道場（臨床研修向上セミナー）	2019～
3月	県内研修医・看護師	宮崎県病院内メディカル・ラリー	2017～
年4回	県外医学生	All Miyazaki研修病院合同説明会ブース出展	2011～

## 2. 協議会ワーキンググループの活動の実際

### 1) 県内高校生対象

#### ① 「宮崎から医師をめざそう！フォーラム」

(図2)

宮崎県の医師数増加には宮崎県出身の医師数を増やすことも重要な要素の一つであり、そのためには、将来医師を目指したいという優秀な高校生を県内から一人でも増やすことが必要であるとの考えから企画された。医学部進学を目指す県内高校生およびその保護者、高校の進路指導担当の先生方を主な対象として、宮崎市内の会場で5部構成、3時間で毎年1回実施している。Part1「宮崎県の地域医療を知ろう！」では、宮崎県の医療の現状について数値データ等を提示しながら概説する。Part2「医学部でどんなことを学ぶの？」では、全国医学部における6年間の医学教育カリキュラムを概説後に、具体例として宮崎大学の教育カリキュラムを提示する。Part3「医学部合格のコツを伝授します！」と「医学部キャンパスライフをご紹介します！」では、現役医学生が自身の経験に基づく学習法アドバイスや大学生活の感想を紹介する。Part4「医学部卒業後の進路について一緒に考えよう！」では、県内で活躍する現役医師が臨床研修・専門研修の実際や女性医師としてのキャリアなどをパネルディスカッション形式で語り合う。Part5「医師・医学生に聞いてみよう！」では、Part1～4の登壇者と会場参加者による質疑応答が行われ、高校生から寄せられる多くの質問に登壇者が真摯に回答し、参加者からは好評を得ている。



図2. 宮崎から医師をめざそう！フォーラム。

### 2) 県内医学生対象

#### ① 「宮崎県7基幹型臨床研修病院合同説明会」(図3)

宮崎大学医学部で開催される6年生対象のマッチング登録方法説明会に引き続き、県内7つの基幹型臨床研修病院が合同で各研修プログラムの説明会を約1時間で実施する。各プログラムの説明時間は5分間と短いものの、実際の研修風景や研修医インタビューを交えた動画の提示、躍動的なプレゼンテーションなど、各研修病院の特徴が凝縮されている。医学生に県内7つの臨床研修プログラムの内容を一度に聞いてもらうことで、各プログラムの特徴と違いを比較検討してもらいつつ、宮崎県全体としての多様性のある魅力的な研修プログラムの存在を認識してもらうことを目的としている。



図3. 宮崎県7基幹型臨床研修病院合同説明会。

#### ② All Miyazaki研修病院合同説明ブース出展(図4)

東京、大阪、福岡等の都市部で毎年開催される全国規模の臨床研修病院説明会に、県内7基幹型臨床研修病院が合同ブースを形成し、All Miyazaki体制で参加している。ここ数年は各病院の研修医や若手医師が主体となって参加しており、「宮崎県の臨床研修病院の全体像を知りたい」という県外医学部在籍中の医学生に対しては、基幹型臨床研修病院間で連携して県内の複数の研修プログラムを紹介するなど、宮崎県で一体化となってブース出展することでのメリットも見られている。



図4. All Miyazaki研修病院合同説明ブース出展。

### 3) 県内研修医対象

#### ① 宮崎県研修医合同基本手技実習 (図5)

2016年までは宮崎大学医学部附属病院の新研修医オリエンテーション時に同医学部の臨床技術トレーニングセンターを利用してシミュレータを用いた基本手技実習を行っていたが<sup>3,4)</sup>、2017年からは県内7基幹型臨床研修病院合同で実習を行う体制へ変更した。実習内容は、静脈採血、動脈採血、筋肉注射、皮下注射、縫合、経鼻胃管挿入、12誘導心電図装着、胸腔穿刺といった日常診療ですぐに必要となる基本手技で構成され、新研修医は各手技について30分毎にローテーションしながら、宮崎大学の2年次研修医および卒業後臨床研修センター教員の指導の元でその手順や方法を学ぶ。臨床研修開始直後に県内研修医が一堂に会して合同実習を行うことで、基本手技の標準の手順を共同学習するとともに、研修施設を越えた研修医同士の横の繋がりを作る場となることを目的としている。



図5. 宮崎県研修医合同基本手技実習。

#### ② All Miyazaki研修医スタートアップセミナー (図6)

従来は毎年4月に宮崎県医師会の主催で新研修医を対象とした研修医祝賀会が開催されてきた。2016年からはWGが新たな企画を加え、宮崎市内の会場で5部構成、6時間の複合イベントにリニューアルした<sup>5)</sup>。内容は、第1部：九州厚生局による新規登録保険医集団指導、第2部：宮崎県医師会による保険医等説明会、第3部：WG企画によるグループワーク「みんなで作ろう！県内研修医の輪～合同アイスブレイキング」、第4部：WG企画による臨床研修講演会、第5部：宮崎県医師会による研修医祝賀会、で構成される。合同アイスブレイキングは、県内研修医がリラックスした雰囲気の中でテーマに沿って一緒に作業を行い、親睦を深める良い機会となっている。臨床研修講演会は、国内第一線の臨床研修病院で活躍されている著名な臨床指導医を毎年お招きし、新研修医に対する研修への心構えや研修サバイバル術などについてご講演いただいている。



図6. All Miyazaki研修医スタートアップセミナー。

#### ③ 臨床研修医ウェルカム広告掲載

宮崎県で臨床研修を開始する研修医を宮崎県民に知っていただき、基幹型臨床研修施設のみならず、各地域の協力型臨床研修施設でのローテート研修時にも、県民から研修医へ積極的にのお声かけいただき、県民と一緒に研修医を育てていくという地域のムードを醸成したいとの考えから企画された。新聞3紙面にわたり掲載される内容は、研修医

一人一人の顔写真と自身の研修への意気込みや宮崎県知事、宮崎県医師会長、宮崎大学学長、各基幹型臨床研修施設の指導医からの激励メッセージ、研修医の全体集合写真などで、明日の宮崎の医療を担う研修医達の熱い雰囲気が伝わる内容となっている。

④ 宮崎県病院内メディカルラリー（図7）

県内研修医や若手医師、看護師の研修機会を充実させるために、日常診療で遭遇する診療場面をシミュレーションで再現し、それぞれの場面での判断や初期対応を実践後、参加者がお互いに振り返り、他の医療者の行動を含めて学び合うことを目的として企画された<sup>6)</sup>。第1回目（2018年）を例として挙げると、「院内で発生した外傷」、「院内での報告とコンサルテーション」、「院内での心肺蘇生とその振り返り」、「病状と検査結果の説明」、「アナフィラキシーショック」の5つの診療場面を設定し、県内研修医と看護師で構成された1チーム8～9名による計6チームで診療パフォーマンスを競い合う形式とした。課題を1つずつクリアする毎に職種と経験の違いを越えたチームワークが醸成され、参加者の学習満足度も高く、研修医単独の勉強会では得られない貴重なチーム医療の研修機会となっている。



図7. 宮崎県病院内メディカルラリー。

⑤ ひむかレジデント道場（臨床研修向上セミナー）（図8）

宮崎県の臨床研修に“屋根瓦式教育”が定着するために、研修医自身が宮崎県の研修

制度の特徴や改善点、その解決方法について当事者意識を持って考えることができ、また、後輩研修医や医学生に対して“教える技術”を習得してもらうことを目的として企画された。卒後10年目前後の県内各病院の若手医師がファシリテーターを務め、4部構成、8時間で実施している。第1部：「宮崎の研修の良いところ？悪いところ？」では、研修医が6名ずつ4つのスモールグループに分かれ、KJ法を用いて意見を集約し、ワークショップ形式で全体討論を行う。第2部：「君もすぐに指導医！どうやって後輩を教えるか？」では、ロールプレイを用いて1分間指導法などの効果的なフィードバック法を実践学習する。第3部：「ハンズオン・セミナー」では、グループ毎に『誰でも使えるエコー！POCUS』、『気道管理アドバイス』、『研修で役立つ小ネタ集』、『小児救急ことはじめ』の4つのブースで実技指導を受ける。第4部：「より良い研修生活を送るには？」では、再びスモールグループで意見をまとめ、全体討論で様々なアイデアを出し合う。終了後は参加した研修医、指導した若手医師との強い連帯感が生まれ、充実した研修となっている。



図8. ひむかレジデント道場。

⑥ 宮崎県専門医プログラム合同説明会（図9）

2018年から正式実施となった新専門医制度に対応するため、2016年より県内研修医および医学生を主な対象とした専門プログラム合同説明会を2部構成、4時間で実施している。前半の説明会では、始めに新専門医制

度の概要と全国および宮崎の状況を総論的に解説し、引き続き県内6基幹型専門研修施設で研修可能な基本19領域に対する30の専門研修プログラムについて担当者による2分間ずつのポイント説明が行われる。その後、参加者は希望する各プログラムの出展ブースで専門医から個別の詳細な説明や相談を受けることができる。後半の懇親会では、宮崎県、医師会、各基幹専門研修施設の関係者と参加した研修医、医学生が一堂に会し、情報交換の場としてさらに親睦を深めている。



図9. 宮崎県専門医プログラム合同説明会。

#### 4) 臨床研修指導医・事務職対象

##### ① 指導医のための教育ワークショップ (図10)

2005年に本協議会が中心となって初めて本県での指導医ワークショップを開催後、ほぼ毎年1回ペースで通算14回開催している<sup>7-9)</sup>。本協議会が開催するワークショップの特徴として、厚生労働省が定めた「指導医講習会の開催指針(2014年改訂)」の内容を踏まえながら、宮崎県としての独自性を持たせるために、テーマを『宮崎県における臨床研修を魅力的なものにするために』としている点がある。ワークショップは、「臨床研修制度がもたらした変化を考える」、「カリキュラム(目標・方略・評価)作成」、「指導医のあり方」、「宮崎県における臨床研修を魅力的なものにするための問題解決策を考える」の4部構成となっており、ワークショップの理解を深めるために5つの講演と2つのセミナーも行われ、1日目夜には情報交換会の場も用意されている。週末2日間に受講する約17時

間の講習会は大変ハードだが、これまでに本ワークショップの受講を修了した474名の指導医が、現在の宮崎県の臨床研修を支えている。



図10. 指導医のための教育ワークショップ。

##### ② 臨床研修事務職のための教育ワークショップ

臨床研修事務担当者が医学生や研修医と接する機会は非常に多く、病院見学時の印象がそのまま臨床研修病院の選択に影響することさえある。その一方で、事務担当者が臨床研修制度について系統的に学ぶ機会は少なく、自分がどのような役割を期待され、医学生や研修医とどのような関係性を保てばよいのか困惑している状況もある。そのため、臨床研修事務担当者が研修医や指導医との関わりを納得・安心してやりがいを持って行えるために、2016年より指導医ワークショップと並行して事務職版ワークショップを企画した<sup>10)</sup>。1日8時間コースで、臨床研修制度の概要、研修目標や評価方法の概要、研修医のメンタルヘルス等を学ぶ機会に加え、異なる病院間の事務職のネットワーク構築に繋がるよう、病院間連携をテーマとした討論や意見交換も行っている。2019年からは7基幹型臨床研修病院の事務担当者が中心となって事務職版ワークショップを独自開催している。

##### 5) その他

2016年には、県内医学生および研修医を対象に宮崎市佐土原町のポストン・サイエンティフィック・インスティテュート・アドバンシング・サイエンス宮崎において、1泊2日での「宮崎内視鏡外科アニマルラボセミナー」を開催した<sup>11)</sup>。内容は、腹腔鏡シミュレータ手技講

習に続いてアニマルラボ実習を企画し、参加者は外科インストラクターの指導の下、実際の手術器具を用いて胃・小腸・大腸の切除術や再建術を経験した。

#### おわりに

2016年に新設されたWGが主体となって、この5年間で次々と新しい企画を実施してきた。その結果、対象者は高校生から医学生、研修医、若手医師、指導医まで幅広いものとなり、活動内容も従来の説明会を主体とした取り組みから県内での若手医師の継続的育成に重点を置いた取り組みへと拡充され、質と量の両面での充実が図られてきている。2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの企画を実施することができなかったが、今後は、従来の対面集合型研修・説明会に加えてICTの積極的活用も模索しながら、“ウィズ・コロナ時代”における新しい医師養成・医師キャリア支援企画を実施していきたい。

著者のCOI開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし。

#### 謝 辞

宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会ワーキンググループの事務局として本事業を支えて下さっている宮崎県医師会を始め、宮崎県福祉保健部医療薬務課および県内7基幹型臨床研修病院の研修担当事務の皆様に深謝致します。

#### 参考文献

- 1) 桐野高明. 医師の不足と過剰 医療格差を医師の数から考える. 東京大学出版会, 2018年.
- 2) 小松弘幸. 宮崎大学医学部の医学生および研修医の進路動向. 日州医事 2010 ; 730 : 6-14.
- 3) 小松弘幸, 有村保次, 安倍弘生, 他. 新研修医オリエンテーションにおける医療シミュレータを用いた基本的臨床手技実習の有用性. 宮崎医学会誌 2013 ; 37 : 195-200.
- 4) 小松弘幸, 河原勝博, 安倍弘生, 他. 宮崎大学医学部臨床技術トレーニングセンター開設後の医療シミュレーション教育の現状. 宮崎医学会誌 2014 ; 38 : 132-8.
- 5) 小松弘幸. 平成29年度「All Miyazaki研修医スタートアップセミナー&ウェルカムパーティー」開催報告. 日州医事 2017 ; 814 : 24-6.
- 6) 小松弘幸. 第1回宮崎県病院内メディカルラリー開催. 日州医事 2018 ; 825 : 19-21.
- 7) 小松弘幸. 平成21年度指導医養成のためのワークショップ. 日州医事 2010 ; 726 : 36-41.
- 8) 小松弘幸. 平成25年度「指導医のための教育ワークショップ」開催報告. 日州医事 2014 ; 775 : 31-5.
- 9) 小松弘幸, 江村 正, 吉田和代, 他. 宮崎県における臨床研修指導医のための教育ワークショップ開催状況の検討. 宮崎医学会誌 2014 ; 38 : 139-45.
- 10) 小松弘幸, 安倍弘生, 長野健彦, 他. 宮崎県における臨床研修事務担当者のための教育ワークショップ開催の試み. 宮崎医学会誌 2018 ; 42 : 190-6.
- 11) 小松弘幸. 平成28年度「宮崎内視鏡外科アニマルラボセミナーin佐土原」開催報告. 日州医事 2016 ; 807 : 30-3.